株主のみなさまへ

第93期 第2四半期 報告書

平成29年4月1日～平成29年9月30日
［証券コード：8285］

目　次

株主のみなさまへ ……1–2
セグメント別の状況……3–4
連結財務諸表／株価関連指標 ……5–6
トピックス ……7–10



［兼六園：雪吊り］

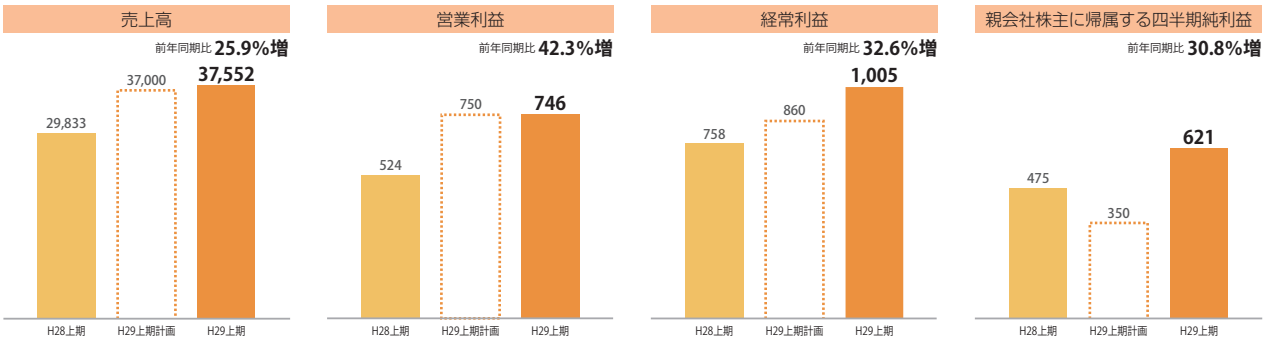
三谷産業株式会社

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より温かいご支援、ご理解を賜り、心よりお礼申しあげます。
第93期第2四半期の事業の概況についてご報告申しあげます。

連結決算ハイライト

（単位：百万円）



第2四半期の業績についてご説明します。

売上高は、前年同期に比べ大幅に増収となりました。樹脂・エレクトロニクス関連事業において、プリント基板の製造およびプリント基板ユニットの組立を行うFujitsu Computer Products of Vietnam, Inc.を第1四半期連結会計期間に連結子会社化したこと、空調設備工事関連事業において、首都圏・北陸地区ともにオフィスビルや病院等の大型新築工事の売上計上が寄与したこと、化学品関連事業におけるベトナムでの既存顧客の深化深耕と新規顧客の開拓が順調であったことを主要因に大幅に増加させることができました。

営業利益も前年同期に比べ大幅に増益となりました。売上高の増加に加えて、情報システム関連事業におけるオリジナルソリューションである「POWER EGG®」の販売が好調であったことに加えて、システム開発案件の安定的な確保による売上総利益率改善に努めたことならびに空調設備工事関連事業において首都圏における大型新築工事が寄与したことから、大幅に増加させることができました。

経常利益および**親会社株主に帰属する四半期純利益**も、営業利益の増加を主要因に増加しました。

配当については、安定配当を重視した経営方針に則り、取り組んでまいります。

中間配当金については、中期経営計画の進捗状況、株主のみなさまからのご意見等を総合的に検討しました結果、1株につき1円増配の4円とさせていただきました。

通期公表計画の達成に向け、グループ一丸となって取り組んでまいります。

当社グループ一丸となって経営目標を達成すべく、下記の4つの視点を重視し活動してまいります。
通期については、下表のとおり増収増益を計画しております。

①継続性の視点
- ・外部環境に左右されず、継続性を第一にぶれない計画の立案
- ・独自のサービスやプロダクトの提供を軸に、投資領域の創出と組織拡大にチャレンジ
- ・ベトナムとの連携によるビジネス領域の拡大

②RCMの視点
- ・危ない事・物の「見える化」に努め、健康な組織づくりと安心で安全な働きやすい環境の整備

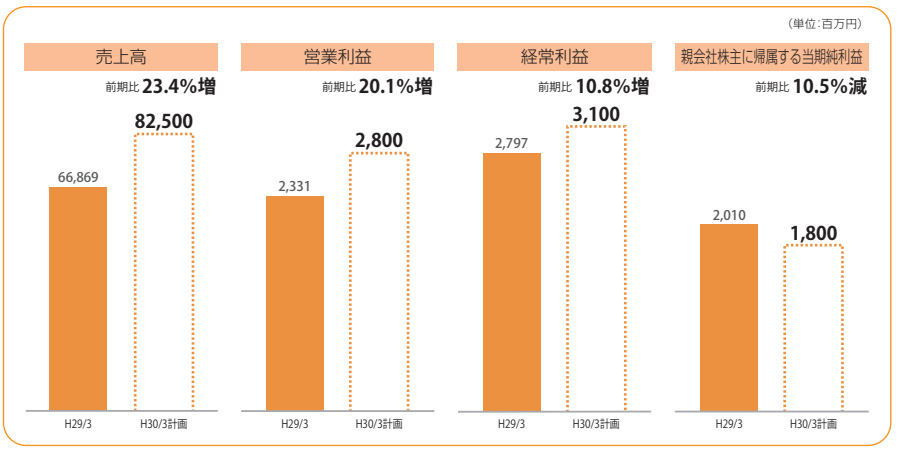
③キャリアビジョンと月次成果の視点
- ・働きがいのある組織づくり
  個人のキャリアビジョンと部門目標とを両立させるキャリアパスの構築

④仕事スタイル変革の視点
- ・流出防止から未然防止への転換を図り、業務の整流化と標準化によるサイクルタイム革新にチャレンジ
- ・ベトナム子会社各社との業務プロセスの密結合の実現

株主のみなさまにおかれましては、今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成29年12月

通期業績予想

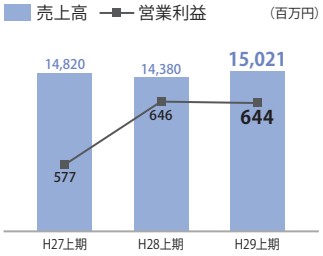




代表取締役社長 三谷（みたに） 忠照（ただてる）

セグメント別の状況

化学品

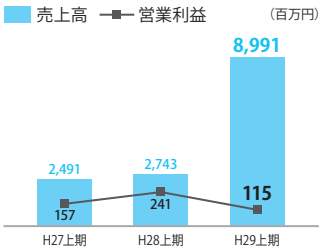


売上高構成比 38.6%

国内における化成品販売については、顧客の生産ラインの稼働率が堅調であったことから、売上高は増加しました。医薬品向け原薬製造については、富山八尾工場での連続生産を推進するとともに、新規開発品目の販売が進んだものの、製剤メーカー各社における安定供給に向けた既存製品の在庫積み増し沈静化の影響があったことから、売上高は減少しました。機能性素材・触媒等の受託製造については、化成品との複合提案等が奏功し新規ビジネスを獲得できたことから、売上高は増加しました。ベトナムにおける化成品販売については、北部の既存顧客への販売が好調であったことに加えて、南部での新規顧客の開拓も順調に進展したことから、売上高は増加しました。

全体の売上高は増加したものの、営業利益は、上記のとおり国内での化成品販売、機能性素材・触媒等の受託製造およびベトナムでの化成品販売は堅調であったものの、医薬品向け原薬における新規品目の開発スピードアップを目的としたバリデーションの前倒しにより一時的に原価が増加したことから、微減となりました。

樹脂・エレクトロニクス

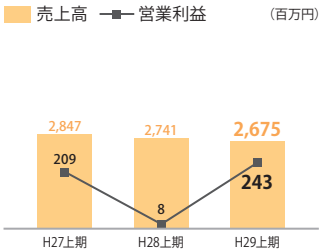


売上高構成比 23.1%

車載向け樹脂成形品の量産が順調に推移したことに加えて、電子部品の販売も伸長したこと、さらにプリント基板の製造およびプリント基板ユニットの組立を行うFujitsu Computer Products of Vietnam, Inc.を第1四半期連結会計期間に連結子会社化したことから、売上高は増加しました。

一方で、当該事業における需要増による遊休設備再稼働に向けた修繕費が発生したことに加えて、原材料価格の上昇が影響したことから、営業利益は減少しました。

情報システム



売上高構成比 6.9%

受注高は、当社オリジナルソリューションである「POWER EGG®」の金融機関向け受注が好調であったものの、前年同期における電子デバイス部品需要増の反動があったことから減少しました。

売上高は、受注高と同様の理由により減少しました。一方、営業利益は「POWER EGG®」の販売が好調であったことに加えて、システム開発案件の安定的な確保による売上総利益率改善に努めたことから大幅に増加しました。

三谷産業 6つの

化学品

樹脂・エレクトロニクス

情報システム

が展開する
事業領域

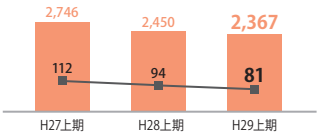
エネルギー

住宅設備機器

空調設備工事

エネルギー

売上高 営業利益 （百万円）



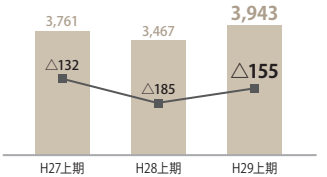
売上高構成比 6.1%

産業用燃料については、原油価格の上昇を受けて販売価格は前年同期に比べ高水準に推移したものの、販売数量は末端市場での競争激化により主力のA重油・LSA重油を中心に低迷を余儀なくされました。民生用LPガスについては、販売価格は堅調に推移し、販売数量も主力の集合住宅向けは順調に増加したものの、業務用・卸向けの需要減退により全体数量は減少しました。以上により、全体の売上高は減少しました。

営業利益は、昨年10月に本稼働した新社内ガスシステムに係る減価償却費の増加ならびに人員増に伴う人件費の増加等により減少しました。

住宅設備機器

売上高 営業利益 （百万円）



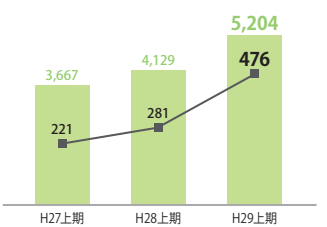
売上高構成比 10.1%

受注高は、首都圏においてホテル・老健施設・病院等の非住宅物件の受注が増加したものの、前年同期は首都圏において集合住宅向けキッチンでの大型物件の受注が複数あったことに加えて、北陸地区において大型新築物件の受注があったことから減少しました。

売上高は、当第2四半期連結累計期間に寄与する完工物件が増加したことから増加となりました。営業損益は、売上高が増加したことから前年同期に比べ損失額が減少しました。

空調設備工事

売上高 営業利益 （百万円）



売上高構成比 13.3%

受注高は、首都圏において駅前再開発や東京オリンピック・パラリンピックに向けた大型新築工事の受注ができたものの、前年同期に北陸地区での大型新築工事があったことから減少しました。

売上高および営業利益は、首都圏・北陸地区ともにオフィスビルや病院等の大型新築工事の売上計上が寄与したことから増加となりました。

連結財務諸表・株価関連指標

■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円未満切捨表示)

科　目	前　期 平成29年3月31日	当四半期 平成29年9月30日	増減金額
<資産の部>			
流動資産	**30,470**	**39,025**	**8,555**
現金及び預金	5,541	6,214	672
受取手形及び売掛金	16,754	18,921	2,166
完成工事未収入金	2,988	4,268	1,280
たな卸資産	3,954	8,045	4,090
その他	1,232	1,578	345
貸倒引当金	△1	△1	0
固定資産	**27,746**	**31,289**	**3,543**
有形固定資産	12,907	15,294	2,386
建物及び構築物	6,975	7,620	644
土地	3,856	3,940	83
その他	2,074	3,733	1,658
無形固定資産	838	945	107
投資その他の資産	14,000	15,049	1,049
投資有価証券	11,870	13,003	1,132
その他	2,129	2,046	△82
貸倒引当金	△0	△0	0
資産合計	**58,216**	**70,315**	**12,099**

(単位:百万円未満切捨表示)

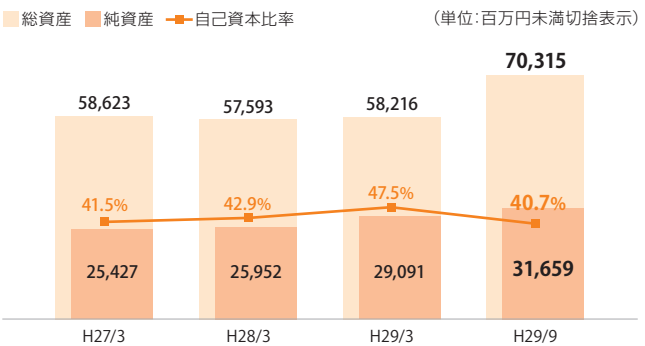
科　目	前　期 平成29年3月31日	当四半期 平成29年9月30日	増減金額
<負債の部>			
流動負債	**24,868**	**33,620**	**8,751**
支払手形及び買掛金	10,602	12,740	2,138
工事未払金	1,353	1,816	462
短期借入金	9,775	12,839	3,063
その他	3,137	6,224	3,086
固定負債	**4,256**	**5,035**	**779**
長期借入金	784	622	△161
その他	3,471	4,413	941
負債合計	**29,125**	**38,656**	**9,531**
<純資産の部>			
株主資本	**24,322**	**24,695**	**372**
資本金	4,018	4,018	—
資本剰余金	3,018	2,996	△21
利益剰余金	17,329	17,723	394
自己株式	△42	△42	△0
その他の包括利益累計額	**3,312**	**3,932**	**619**
非支配株主持分	**1,455**	**3,031**	**1,575**
純資産合計	**29,091**	**31,659**	**2,567**
負債純資産合計	**58,216**	**70,315**	**12,099**

■連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円未満切捨表示)

区　分	前四半期 自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日	当四半期 自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,342	216	△3,125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△791	△2,065	△1,273
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,886	2,500	5,386
現金及び現金同等物に係る換算差額	△94	35	130
現金及び現金同等物の増減額	△431	686	1,117
現金及び現金同等物の期首残高	5,420	5,222	△197
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,989	5,909	919

■総資産・純資産・自己資本比率の推移

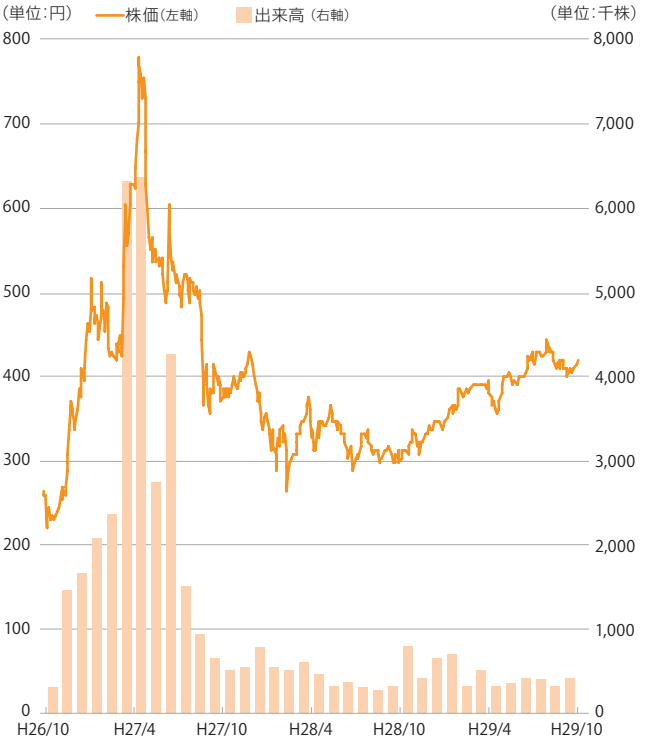


■連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円未満切捨表示)

科　目	前四半期 自 平成28年4月 1日 至 平成28年9月30日	当四半期 自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日	増減金額
売上高	**29,833**	**37,552**	**7,718**
売上原価	24,170	31,216	7,046
売上総利益	**5,662**	**6,335**	**672**
販売費及び一般管理費	5,138	5,589	450
営業利益	**524**	**746**	**221**
営業外収益	390	383	△6
営業外費用	156	124	△31
経常利益	**758**	**1,005**	**246**
特別利益	11	8	△2
特別損失	9	55	46
税金等調整前四半期純利益	**760**	**957**	**197**
法人税等	205	308	102
四半期純利益	**554**	**649**	**94**
非支配株主に帰属する四半期純利益	78	27	△51
親会社株主に帰属する四半期純利益	**475**	**621**	**146**

■株価／出来高の推移



(注)東証の株価終値および出来高を使用しています。

■1株当たり当期純利益・1株当たり純資産・1株当たり配当金の推移

(単位:円)

	H26/3	H27/3	H28/3	H29/3	H30/3予
1株当たり当期純利益	18.75	29.50	24.18	35.87	31.59
1株当たり純資産	395.90	434.61	441.66	485.04	508.63
1株当たり中間配当金	3	3	3	3	4
1株当たり期末配当金	3	3	3	4	4
1株当たり年間配当金	6	6	6	7	8

■株価収益率(PER)・株価純資産倍率(PBR)・配当利回りの推移

	H26/3	H27/3	H28/3	H29/3	H30/3予
株価収益率(PER)	10.61倍	20.07倍	14.47倍	10.51倍	13.04倍
株価純資産倍率(PBR)	0.50倍	1.36倍	0.79倍	0.78倍	0.81倍
配当利回り	3.0%	1.0%	1.7%	1.9%	1.9%

(注)1.株価収益率(PER)=「株価」÷「1株当たり当期純利益」
2.株価純資産倍率(PBR)=「株価」÷「1株当たり純資産」
3.H30/3期の予想値については、H29/9末日の東証株価終値412円を使用しています。

トピックス

ベトナム自動車部品工場を増築

自動車部品の製造を行うADMS社の工場増築が完工し、本年8月に竣工式を執り行いました。

今回増築した工場は、無駄のない作業動線やロボット導入によるオートメーション化を考慮した製造ラインを意図することで、従来の2倍以上の成形機が設置できるようになりました。今後、自動車のエレクトロニクス化や共通部品化が進み、ますます拡大していく複合ユニット製品や樹脂成形品の需要に対応できるベトナム屈指の生産能力を誇る工場となります。

今後は、本年6月に子会社化した電子基板の製造・組立を行うFCV社との協業を加速させ、電子部品と樹脂成形品を組み合わせた複合ユニット製品を本格生産し、業容拡大を図ってまいります。また、当社グループが掲げる「良品しかつくれない製造工程」を構築すべく、生産準備活動の徹底にも取り組んでまいります。

■ 工場増築の概要

所在地		ベトナム社会主義共和国ドンナイ省ビエンホア2工業団地		
建物概要		増築部分	既設部分	合計
	敷地面積	4,052㎡	8,971㎡	13,023㎡
	延床面積	5,391㎡	4,384㎡	9,775㎡
成形機設置可能台数		48台	30台	78台
投資総額		3億60百万円		



増築後工場外観



竣工式

<略称について> ·ADMS社(Aureole unit-Devices Manufacturing Service Inc.)
·FCV社(Fujitsu Computer Products of Vietnam, Inc.)

ベトナム人社員が最優秀賞を受賞

本年7月、当社グループの社員が一年間に挙げた大きな成果を発表・共有するプレゼン大会「MITANI AWARD 2017」を開催しました。

第4回となる今回は、グループ全体で21組がエントリーし、ADMS社がベトナムグループ会社として初めて最優秀賞に輝きました。その取り組みは、若手のベトナム人社員がリーダーシップを発揮し、従来は部門ごとに取り組んでいた改善活動を全部門参加型へと進化させ、大幅な生産性の向上に成功したというものです。

ベトナム人社員が、いまや従業員数で当社グループの80%以上を占めるようになりました。次世代のベトナム事業を担うリーダー人材が着実に育ってきており、当社グループ全体に対しても大きな活力を与える存在となっています。



ベトナム伝統衣装アオザイを着用した発表者

事業規模拡大により広島事業所を新築移転

当社広島事業所は、樹脂・エレクトロニクス事業の生産準備拠点として、製造工程の構築や技術力の向上に取り組んでいます。

そして、同事業の規模拡大に対応するため、事業所を新築・移転することを決定し、本年8月に着工しました。完成は来年3月を予定しています。

今回の移転で拡大するトライアルセンターでは、従来の機能に加え、金型製造のリードタイム短縮への取り組みや、治具の試作・共通化、今後本格生産する複合ユニット製品の試作・検証などの機能を強化してまいります。



新社屋完成イメージ

ワークスタイルを変えていく「POWER EGG®」



近年、企業での対応が急速に進んでいる「働き方改革」に有効なツールであると好評の「POWER EGG®」。金融機関では、残業代を96%、毎月の紙使用量を110万枚も削減した事例もあり、雑誌やその他メディアでも数多く取り上げられています。

当社グループが開発・販売しているオリジナル製品「POWER EGG®」は、グループウエア、ファイル管理、ワークフローやWebデータベースなど、ペーパーレス化を支援する機能をオールインワンで実装しています。「POWER EGG®」は、これまで紙で行っていた煩雑な稟議申請や経費精算をなくすことができ、ペーパーレス化やそれによる決裁のスピードアップを実現できます。また、利用者にとって必要な情報だけをタイムリーに配信し、次の行動への「気づき」を促すため、見落としや対応漏れを防止できます。

さらに、今後はユーザーエクスペリエンスの最適化や多様なクラウドサービスとの連携、そしてAI技術（自然言語処理、画像・音声認識やディープラーニング）によって、「気づき」と「行動」を誘発し、さらなる利便性の向上を目指して開発に取り組んでまいります。

導入事例

■（株）鳥取銀行（4月） ※中国エリア金融機関初
既存業務のペーパーレス化および業務手順見直しを行い、「働き方」を変えることで、生産性向上を促進し、経費削減や業務時間の短縮を目的に導入

■カブドットコム証券（株）（8月） ※証券会社初、オンライン専業金融機関初
社内情報の共有と業務プロセスの機械化を推進する生産性向上ツールとして導入

■（株）ビーイングホールディングス（9月）
これまでの煩雑な業務、属人的な業務や業務の重なりを排除し、社員がより創造的な業務に取り組める環境を目指して導入

その他、33社にご採用いただいた結果、本年9月末時点で1,242社（自治体:78団体 地方銀行:16行を含む）、約371,000ライセンスの導入実績となりました。

※ユーザーエクスペリエンス：製品等の利用を通じて得られる体験

新任社外取締役　就任あいさつ



取締役　**清木　康**

慶應義塾大学環境情報学部教授
同大学大学院政策・メディア研究科委員長
日本データベース学会会長

本年6月開催の株主総会において社外取締役に選任いただきました清木でございます。

平成10年より慶應義塾大学環境情報学部の教授を務めております。専門は情報科学におけるデータベース分野、特に人工知能やビッグデータ技術分野を対象としております。これらは、これからの社会との関わりが非常に大きく、発展が期待されています。

人類の歴史を振り返ると、人類社会は新しい発見・発明への挑戦、イノベーションによって発展してきました。そして、イノベーションの途絶えた社会は消滅への道をたどってきました。これからの企業活動において、新しいイノベーションを起こす価値生成として、我々には、“Connection Merit”すなわち“連結の拡大”による価値生成が必要となってきます。例えば、“新しい技術”とそれを“マネジメントする仕組み”の組み合わせを企画・設計する新しいプロフェッショナルやセクションを育てること、物理空間と情報空間を併せ持った新たな連結システムを構想し創り上げていくこと、また急速な社会・技術変化と長期的変化への対応を兼ね備えた“サステイナブル・システム（持続可能なシステム）”を構想していくことです。

さらに発展的な企業へと先導するために不可欠なことは、“CHALLENGER”であり続け、新しい時代を切り開く構想“VISION”、それを実現する方法論を形成する“MISSION”、それらを支える“PASSION”を併せ持つことと考えています。これらをみなさまと共有し、当社のさらなる発展やイノベーションに貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

トピックス

北陸最大規模の国際公認プールを施工

本年4月にオープンした金沢市城北市民運動公園屋内プール（通称:金沢プール）の建設において、当社が担当した空調設備工事が金沢市より優良建設工事として表彰されました。当施設は日本水泳連盟の国際公認プールとして認定されており、2020年開催の東京五輪フランス代表チームの事前合宿も行われる北陸最大規模の屋内プールです。

塩素や湿気といったサビの天敵が多いプールの施工には、高い技術力と施工品質が求められます。

一級建築士事務所として培ってきた設計力·施工力を最大限に発揮できたことが、今回の評価につながりました。

今後も、絶えず技術力の向上に努め、人々に親しまれる施設を手掛けてまいります。



金沢市城北市民運動公園屋内プール（金沢プール）

ACSD社が二級建築士事務所に登録

本年6月、ベトナムで建築物のCAD設計や積算を行うACSD社は、ベトナムの会社としては前例の少ない、日本での二級建築士事務所を開設しました。

これにより、木造建築の分野で「意匠」「実施」「構造」「生産」という一連の設計工程を一貫して担うことができるようになります。

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の整備により、国は学校や老健施設において木造を推奨しており、木造建築の市場は拡大傾向にあります。

ACSD社はベトナムに約300名の優秀な技術者を有しており、現地日系企業の中で最大の人員規模を誇ります。優秀で豊富な人材を強みに、二級建築士事務所である日本支店と連携し、事業領域の拡大を図ってまいります。

<略称について> ACSD社（Aureole Construction Software Development Inc.）

「第3回Aureoleカンファレンス」を開催

本年9月、ベトナム·ハノイ市において、ベトナムでの高度産業人材育成を目的とする産学官を交えたイベント「第3回Aureoleカンファレンス」を開催しました。



主催者挨拶

経済発展著しいベトナムには製造業を中心に多くの日系企業が進出しています。そこでは、現地の文化やキャリア観を前提とした人材育成が、生産性の高い組織を作るうえでの課題となっています。



パネルディスカッション

本イベントでは、日本で培われたものづくりにおける品質管理の仕組みやノウハウを紹介するとともに、それらが効果を発揮するためには社員の主体性とチームワークの形成が不可欠であることが語られました。

基調講演後のパネルディスカッションでは、金沢工業大学の大澤敏学長、日越大学の古田元夫学長を交え、大学における取り組み事例を紹介しながら、産学が連携した人材育成のあり方について議論を深めました。

テーマ	Work as a Team, Effort as a Team
基調講演	「前向きにチームで働くこと」 花田光世氏〔慶應義塾大学名誉教授、当社社外取締役〕 「日本の品質管理、QCサークル活動について」 小大塚一郎氏〔（一財）日本科学技術連盟 専務理事〕 「品質管理教育としての士気管理とは」 川西由美子氏〔ランスタッド（株）EAP総研 所長〕
参加者数	172名（日系企業90名、ベトナム現地企業59名、政府·学府関係者23名）

ベトナム国宝級絹絵修復プロジェクト展開催

本年5月、当社が支援・協賛する展覧会「女たちの絹絵　ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン絵画保存修復プロジェクト展」が、上野の森美術館ギャラリーで開催されました。

20世紀のベトナム近代絹絵の生みの親として知られるグエン・ファン・チャンの傷んだ作品たちを保存・修復し、より多くの方々に鑑賞してもらいたい。そのような想いから、絵画保存修復家の岩井希久子氏とともに、金沢21世紀美術館で開催した第1次プロジェクト展からこれまで3回にわたって支援してきました。

多くの企業からの支援や最新技術により9年の歳月を経て、繊細な絹に描かれた働くベトナムの女性たちの姿が美しく蘇りました。

当社グループと絆の深いベトナムの素晴らしい文化を次世代に遺す一助となれるよう、これからも尽力してまいります。



リーフレット

被災地への支援活動

当社では、少しでも復興の手助けになればと考え、継続的に被災地の支援活動を行っています。仮設住宅を訪問し、コミュニケーションを図ったり、被災者同士の団らんの場を提供することで、心のケアにも配慮した支援活動に努めています。

食器をお渡しした方々からは、「来てくれて本当にありがとう。大切に使わせていただきます。」などの言葉をいただきました。

■ 熊本地震

・熊本県南阿蘇村の仮設住宅全40戸にお見舞い文入り食器を寄贈、8カ所の仮設団地において青空市を開催

■ 九州北部豪雨

・福岡県朝倉市と東峰村の仮設住宅全100戸に、お見舞い文入り食器セットを寄贈


青空市でのふれあい

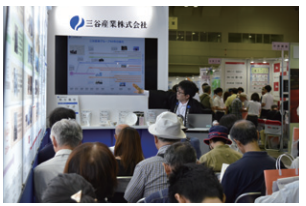
投資家向けイベントへ参加

当社は、投資家のみなさまに会社概要をはじめ、事業内容、成長戦略や配当政策などをご理解いただき、一人でも多くの方々にファンになっていただけるよう、積極的なIR活動を展開しています。

当社グループは、首都圏・北陸・ベトナムを拠点とし、商社でありメーカーでもある、そして6つの事業領域を有する複合企業です。その幅広さや多様さが強みである一方で、投資家のみなさまからは「事業内容が多岐にわたり、どのような会社なのかがわかりにくい」「どうして早くからベトナムに進出しているのか」といったご意見・ご質問が多く寄せられます。こうした疑問に一つずつお答えしていくことが何よりも大切であると考え、そのための機会をより多く設けることにも取り組んでおります。

本年4～9月には、記者向け決算会見、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催したほか、2度の個人投資家向けIRイベントにて、当社社長・専務がプレゼンの機会を持ち、ご来場のみなさまのご質問にもお答えしました。

なお、来年3月には東証IRフェスタにも参加いたしますので、ご都合のつく株主さまは是非お越しください。


名証IRエキスポ2017



合同個人投資家セミナー

その他、以下のトピックスがありました。

・第4回ワークスタイル変革EXPOへ出展（7月）
・「POWER EGG Ver2.11c」の提供開始（8月）
・夏休みの社員の子供を対象に職場見学会を開催（8月）
・「時差出勤」制度導入で福利厚生制度を拡充（9月）
・「ベトナム海外インターンシップ・プログラム2017」へ研修プログラムを提供（9月）

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
1単元の株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所･名古屋証券取引所
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主優待の割当基準日	3月31日
定時株主総会	6月中に開催します
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
連絡先	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 **0120-232-711** （通話料無料）（受付時間：土･日･祝日を除く平日9:00～17:00）
公告掲載方法	電子公告にて行います http://www.mitani.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

ホームページに掲載しています。

当社グループの事業活動やCSR活動への取り組み等は、ホームページに掲載しています。

http://www.mitani.co.jp

■ 株式のお手続きについて

当社の株式の各種お手続きについては、

1. 原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
   株主名簿管理人ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された当社の株式に関する各種お手続きについては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
   なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎします。
3. 未受領の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式（1～99株）については市場で売買することができませんが、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求（売却）または買増請求（購入）をすることができます。お手続きの方法等については、口座管理機関にお問い合わせください。

■ 特別口座をご利用の株主様へ

特別口座に記録されている単元株式については、特別口座のままでは売却できません。株式の売却等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めします。お手続きの方法等については、左記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。

お問い合わせ先
三谷産業株式会社 コーポレート本部 企画課
東京本社:〒101-8429 東京都千代田区神田神保町2-36-1 TEL 03(3514)6003(直通)
金沢本社:〒920-8685 石川県金沢市玉川町1-5 TEL 076(233)2151(代表)

免責事項
本誌に掲載されている業績予想については、作成時点において入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

VEGETABLE OIL INK
この冊子の印刷には、環境に配慮したFSC®認証紙と植物性インキを使用しています。
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022833